

きのかわ支援学校第2回学校運営協議会

- 1 日時 令和6年10月8日(火) 10時00分~11時30分
- 2 場所 きのかわ支援学校 会議室
- 3 参加者 きのかわ支援学校 学校運営協議会委員 10名
- 4 協議・報告の内容

〈取組状況の評価を踏まえた協議〉

学校長より、令和6年度の1学期から目標として取り組みを進めてきた教員のこどもへの関わりで大切にしている①あいさつ、②丁寧な言葉遣い、③呼称(〇〇さん)について、2学期も継続して授業等において取組を進めていくことについて、説明を行いました。

その上で、委員の皆様には現時点での取組状況の評価をしていただくため、「評価シート」をもとに授業参観を通してチェックをして頂き、チェックを頂いた項目をもとに、今後の改善点などについてご意見や感想をいただきました。



また、今年度よりスタートしている本校高等部(マーケティング班)と伊都中央高等学校との共同学習の取組について、委員の皆様に対して、授業の中で作成したプレゼン資料をもとに、生徒たちによる報告を行いました。委員の皆様からは、説明が端的で大変わかりやすく、話をする姿勢や言葉遣い、話すスピードなどについても、「とても良かった」といった感想を頂きました。さらに「この取組を今年度で終わらせるのではなく、継続した取組となるよう、地域を巻き込みながら進めてほしい」など、生徒たちに対してのメッセージも頂きました。

〈各委員より〉

- ・授業参観の中で男子児童生徒に対する呼名としては「〇〇くん」という呼び方が多かった。今は、小学校においても「〇〇さん」と呼んだり、文書での記述も「〇〇さん」と記載したりするなど、男女で呼び名を分けないようにしている。
- ・福祉機関や学校では「〇〇くん」、「〇〇ちゃん」と呼ぶことが多いが、教員のこうした呼名は、社会からどう見られているのかについても、意識を高く持つことが大切である。
- ・「〇〇さん」という呼称は、特に高等部の段階では大切だと考える。
- ・社会において、相手を「〇〇さん」と呼ぶことは大切で、こどもたちが社会へ出た時に、そういった呼名ができることは必要である。
- ・丁寧な言葉とそうでない言葉とを実際に使い分けることは難しいと考えるので、その点も踏まえて、在学中の取組を進めていただきたい。
- ・教員が使用する言葉は、こどもたちへの影響が大きい。本日の授業参観から、教員がそのことを意識しながら見本となる言葉を丁寧に扱っていると感じた。
- ・親しみやすい言葉も大事だが、きっちりとした言葉遣いも大事である。
- ・こどもたちの動きを導くような丁寧な言葉がけが見られた。